

白山ふるさと文学賞

第十三回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年 作文の部 最優秀賞

「小児科医に私はなる」

蕪城小学校五年

森田^{もりた}

都^と琶^わ

私はしょうらい、医者になりたいと思っています。目指そうと思っ
たきっかけは、二年前になくなったおじいちゃん存在です。私のお
じいちゃんは、産婦人科の医者でした。すごくやさしくて、いつも一
生けん命で、立派な医者でした。私はとてもそんけいしています。そ
のおじいちゃんが今の医学ではなおすことのできない重い病気にか
かり、なくなりました。その時私は、病気で苦しんでいる人達をより
多く助けたいと思い、医者を目指すことにしました。

医者には眼科、耳鼻科、皮膚科や脳・内臓など人間の体の色々な
部分の専門医がたくさんあります。おじいちゃんと同じ産婦人科の医
者は、赤ちゃんのたん生に立ち会えるとてもすてきな仕事だと思います。
だから私も産婦人科の医者になりたいと思っていますが、今は
小児科医になりたいと思っています。

そのきっかけになったのは、あるテレビ番組を見たことでした。そ
のテレビ番組では小児科病院に入院している子供達やそこで働く医
者のことを特集して放送していました。その病院には色々な病気の子
供達がいて、小さな子が「がん」とたたかっていました。とても苦し
い治りようをがんばり、薬のえいきょうでかみの毛もぬけて、大変な
思いをしている子供もいました。担当の医者はえらそうな態度などい
つさもなく、病気の子供達に友達のように接していて、笑わせたり、
はげましたり、体だけじゃなく、心も元気にしてあげられるようにが
んばっていました。子供達もお母さん達もすごくその医者のことを信
らいしているように見えました。

私はサルモネラ胃腸炎になり入院したことがあります。その時は一
週間だけの短い期間でしたが、たった一週間でもすごくつらくて、早
く家に帰りたいと思っていました。重い病気の子供は、何か月もの間、
入院生活をしていて、やっと退院できてもまた病気が悪化して入院し
たり、退院したりをくり返すこともあるそうです。子供本人はもちろん
ん大変だと思いますが、家族は本当に心配でたまらないと思います。

そんな時に医者がよりそって、きちんと病気の説明や治りようのこと
をくわしく伝えてくれれば家族の不安は軽くなると思います。私は医
者になつたら、絶対にかんじゃさんとその家族によりそうことができる
優しく親切な医者を目指していこうと思っています。

番組では他にも産まれたばかりの小さな赤ちゃんが生まれつきの
難病で小さな体に、たくさん管をつけられていて、その小さな命を
助けようと必死に治りようをしている医者の姿もありました。小さい
赤ちゃんへの治りようは、ふつうの治りようより何倍も難しく、高い
技術が必要だそうです。そして医者は「必ず助けるという強い思いで
治りようをしている。」と話していました。テレビの前で私も「なん
とか助かって、お母さんに抱っこしてもらってほしい」と願いながら
見ていました。

そんな医者達の姿を見て、私も将来、小児科医になつて、病気で苦
しんでいる子供達を一人でも多く元気にしてあげたいと思いました。
元氣なつて、学校にも通つて、勉強も運動もできるようになつて、友
達ともたくさん遊べるように一人でも多くの子供達に楽しい人生を
送ってほしいです。

小さい子供達と向き合うのに大事なことは「笑顔」だと思います。
不安な時に相手が笑顔で接してくれたら、心が落ちつくし、話も聞く
ことができます。いつも笑顔をやさないようにしていきたいです。
私が目指す医者の姿は、病気の治りようをすることだけでなく、か
ん者さんやその家族から、何でも話してもらえように信じられても
らい、安心して治りようを受けてもらえるような医者になることで
す。

そしてなにより医者になるためには、ものすごく勉強をがんばつ
て、医学部に入学しなければなりません。そのために私は、勉強をも
のすごくがんばっています。将来の夢に向かってこれからいろいろな
ことに挑戦して努力していきたいと思っています。